

山河

第43号

一般社団法人
神奈川県森林土木建設業協会



生コンクリート・砂利・砂生産販売

二葉建設株式会社

足柄上郡山北町山北3090-4
山北工場 TEL 0465(75)0611
生コン部 TEL 0464(75)0738
本社 TEL 0550(82)2088

土木、建設機械販売・修理・賃貸
仮設資材・鉄板・保安用品・ハウス・トイレ

ひ平澤機工有限会社

〒254-0004 神奈川県平塚市小鍋島1187~1
TEL 0463(55)8660(代)
FAX 0463(55)8661

建設機械・リース・販売・修理・レンタカー

 株式会社 カトー

山 北 本 社 (0465)76-3415(代)
御殿場営業所 (0550)89-8115(代)
中井営業所 (0465)81-5151(代)
厚木営業所 (0463)90-3415(代)

関 東 土 木 鉄 構 会

鋼製自在枠・落石防止壁・ノンフレーム工法
L型メッシュウォール・カゴ枠・大型カゴ枠

・神奈川地区・指定代理店
井上鋼材株式会社 平塚支店
〒254-0013 平塚市田村3-7-25
TEL 0463-55-0432 FAX 0463-54-7960

・事務局
 日鐵住金建材株式会社 NSMP
〒135-0042 東京都江東区木場2-17-12SAビル
TEL 03-3630-2492 FAX 03-3630-2642

緑の休暇村青根キャンプ場

川遊びにテニス自然を遊びつくそう

東京から約1時間、奥相模湖の下流に位置する豊かな自然に恵まれたキャンプ場。
場内では川遊びやマスのつかみ取りを楽しもう。要予約制のバンガローは72棟、
オートキャンプも100張可能となっている。フィッシングエリアも併設されている。

神奈川県・旧津久井町

☎ 042-787-1380
<http://www.tsukui.ne.jp/kankou/camp/midorikyuka.htm>

住 所:神奈川県相模原市緑区青根807
アクセス:中央道相模湖ICから国道20号経由で12km
営業期間:3/15~11/30 予 約:申し込みは随時受付
電源サイト・エアコン付きバンガロー有り

【情報】
売店、水洗トイレ、
食堂、シャワーなど
あり、駐車場200台

自然との調和がテーマです

箱根セントラル生コン株式会社

〒250-0631
神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1141
TEL 0460-84-7722 FAX 0460-84-8698
業務直通 0460-84-0220

NIHON KIZAI

建設機械・機材・販売、修理、レンタル
 日本機材株式会社

・本 社
〒250-0863 小田原市飯泉 941-11
TEL (0465)48-2221 FAX (0465)48-2782
・秦野営業所
〒257-0015 秦野市平沢 727-1
TEL (0463)82-3355 FAX (0463)82-2282



大生建材 株式会社

宇部三菱セメント株式会社 特約店
日本植生(株)代理店 コンクリート二次製品・製造販売

本 社:川崎市川崎区四谷上町24番12号
TEL 044-266-2031 FAX 044-277-4903
厚木営業所:厚木市三田3380-1番地
TEL 046-241-1927 FAX 046-241-0271

企画力と価格に自信!
ホームページ
会社案内制作
株式会社コンパス

詳しくは TEL.046-250-1005 厚木市森の里青山14-1
<http://www.e-compass.ne.jp/>

- 各種印刷・デザイン
パンフレット、チラシ
- ホームページ制作
PC・携帯用サイト
- 看板制作
看板、横断幕
- 映像制作
会社PR、製品紹介
- オリジナルTシャツ

第43号

平成26年5月20日

(一社)神奈川県森林土木建設業協会

編集

総務委員会

事務局

〒252

0155

相模原市

緑区

鳥屋

2878

78

8

半世紀の重みと責任

創立50周年によせて

(一社) 神奈川県森林土木建設業協会

会長 山本 善一



山の緑をいつまでも
河の流れをいつまでも
守り育てる その夢に
かけた男の 心意気
大地に立ちて 明日を呼ぶ
ああ われら 森林土木建設業協会

これは、創立30周年に当協会から発刊された、「山河30年の歩み」の冒頭部分に掲載されている、今は亡き光山樹太郎先生が作った、協会歌の一文です。昭和38年の創設以来、先人の方々並びに会員各位のご協力により、また発注機関である神奈川県環境農政局並びに林野庁各位のご理解と支援を得ながら、神奈川県下の大重要な資源である森林を守りまた重要な水資源のかん養、さらにはそれらを含む国土保全のための重要な事業に対し多大な貢献をいただき、本年創立50周年を迎えることができました。

改めて、協会員をはじめとする関係各位の皆さんに、心よりお礼申し上げます。

「かながわの森林再生と基盤整備事業」

神奈川県 環境農政局 水・緑部長

村松 隆



初年兵の頃

神奈川県湘南地域県政総合センター 森林課

金沢 秀一

けます。「一言に『50年』と申しましても、その歴史はひとつ一つの積み重ねであり、時代に柔軟に対応してきた当協会の歴史を見ても、根底に流れの創立の熱き思いは脈々と受け継がれていると信じております。都市型土木と違い、現場が常に自然状況に左右されたり、その立地が厳しい現場であっても当協会員は立ち向かいとして克服し、素晴らしい成果品をご提供いただきました。まさしく冒頭に記載しました協会歌の通りの神奈川県森林土木建設業協会であります。しかしながら近年は、バブル経済の崩壊や政権交代により、「コンクリートから人へ」に代表される公共投資の大幅な減少が、建設企業の経営環境が悪化し廃業・倒産が相次ぎました。当協会の会員も創設時100社を超えた会員数が現在では60社弱となり、協会活動にも多少の陰りがあつたことは否めません。その状況の打破をするために、協会理事会においてまた協会員全員の合意を得て、平成24年4月に社会的に認知された団体としています。



森林づくりは
道づくりから
始まります。
国土を守る。未来を守る。

(一社)全国森林土木建設業協会
(一社)神奈川県森林土木建設業協会

て責任をおつしていくために社団化されました。まさに社団法人改革のまつだ中ではありました。が、どの建設関係団体よりも早く設立協会として、新たな一步を踏み出しましたことは、これから協会運営において明確な指標となることでしょう。また、一般社団法人として神奈川県との災害防止支援活動の協定は、積み重ねることにより、いすれば協会員の大きなインセンティブに発展していきますので、全員で取り組んでいきたいと思います。

今年度、創立50周年記念事業として県民の皆様を対象に「森林と水」写真コンクールを開催いたしました。神奈川県をはじめとする多くの団体の皆様の後援をいただき、実際に社会的に認知された団体としています。

最後になりますが、この5年の先輩の皆様の血のにじむようなご努力に感謝し、また協会員の皆様との絆を強固なものとし、県民にとってなるべくはならない協会に発展するよう努めます。新しい一般社団法人神奈川県森林土木建設業協会にご期待ください!!

最後になりますが、この5年の先輩の皆様の血のにじむようなご努力に感謝し、また協会員の皆様との絆を強固なものとし、県民にとってなるべくはならない協会に発展するよう努めます。新しい一般社団法人神奈川県森林土木建設業協会にご期待ください!!

ヘクタールに及ぶ崩壊地の復旧、県内で戦後最大の豪雨災害となつた、山北町の昭和47年豪雨災害の復旧が選定されました。

長年にわたり、治山事業を実施してきた結果、大きな災害は少なくなつてきましたが、近年の台風で、スコリアと呼ばれる富士山の火山噴出物流出による被害が発生し、対策が課題となっています。

また、本年2月関東甲信地域では2度にわたる記録的な大雪に見舞われました。

県内の林業関係では、木材加工施設やしいたけ栽培用ビールハウスが被害を受け、林道の大半が通行不能となり、除雪等の対応が必要になりました。施設の破損が発生している林道もありました。今後、優先度等を勘案しながら復旧を図つていかなければなりません。

このように見てまいりますと、林道の基盤整備であり、工事中の路線の全線開通に向けた工事の実施や、作業道整備のための市町村等への支援伐り出した木材の仕分けや積み込みを行ふための作業ヤードの整備を行つて、木材の有効利用を図りながら持続的な森林管理を目指しております。

この取組を進めるために不可欠なのが林道等の基盤整備であり、工事中の路線の全線開通に向けた工事の実施や、作業道整備のための市町村等への支援伐り出した木材の仕分けや積み込みを行ふための作業ヤードの整備を行つて、木材の有効利用を図りながら持続的な森林管理を目指しております。

本県では、平成18年に「かながわ森林再生50年構想」をとりまとめ、その中で林道に近い森林を「木材資源を循環利用するゾーン」と位置付けることによって、木材の有効利用を図りながら持続的な森林管理を目指しております。

本県からは、関東大震災により舟沢・箱根地域を中心に発生した約8千6百箱根地域を中心発生した約8千6百

神奈川県森林土木建設業協会の皆様には、森林・林業行政の推進にあたり、平素から多大なる御支援と御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

本県では、平成18年に「かながわ森林再生50年構想」をとりまとめ、その中で林道に近い森林を「木材資源を循環利用するゾーン」と位置付けることによって、木材の有効利用を図りながら持続的な森林管理を目指しております。

この取組を進めるために不可欠なのが林道等の基盤整備であり、工事中の路線の全線開通に向けた工事の実施や、作業道整備のための市町村等への支援伐り出した木材の仕分けや積み込みを行ふための作業ヤードの整備を行つて、木材の有効利用を図りながら持続的な森林管理を目指しております。

治山事業は、明治44年の第一期治水事業の開始から百年が経過しました。林野庁では、これを機に、緑がよみがえり、国土の保全に寄与した治山事業地を「後世に伝えるべき治山」へとみがえる緑」として全国から選定しました。

本県からは、関東大震災により舟沢・箱根地域を中心発生した約8千6百

箱根地域を中心発生した約8千6百

事業と治山事業は、まさに自然の中にあって、森林づくりの基盤となるものであることが分かつてくるようになっていきます。協会の皆様には、今後も本県の森林づくりについて、これまで以上にお力添えくださるようあらためてお願ひ申し上げます。



百年に一度の大雪を迎えて

県央地域県政総合センター 森林土木課

私は、平成二五年度より県央地域県政総合センターの森林土木課に異動となり、森林土木事業を担当していきます。当課は、丹沢北部に位置する四市町村を中心治山・林道事業を実施し、管理している県営林道は「四路線約一二〇km」となっています。林道は、森林整備事業、治山事業の円滑な遂行など森林づくりの大切な基盤として活用されています。

平成二六年一月に百年に一度と言われる大雪に見舞われ、街中でも積雪により交通に大変な影響がありました。山間部では更なる積雪があり、直後に調査できず、実際に林道等の様子がわから始めたのは数日経過しました。山間部では更なる積雪があり、被災調査はなかなか進められず、一か月経つても被害の全容を把握しきれてないので、今後も更なる調査が必要となっています。

四月になり、街中では雪も見なくなりましたが、山中の標高が高い地域、日の当たらない斜面、沢筋の吹き溜まりでは、今も雪が残っています。台風災害とは被害の内容も時期確認しました。しかし、積雪が膨大で被害調査はなかなか進められず、業者の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。



た瞬間、景色は一変した。作業を終え、泥まみれでテント村に戻ると、町は普段の生活をしているように見えた。最初は、このギャップになかなかじめなかつた。ボランティアセンターの受け入れが、週2日に切り替わるまでの3ヶ月間、主にヘドロをかき続けた。スコップで泥を取り除き、一輪車で運ぶ作業。こつこつやれば状況はどんどん変わっていく。少しずつ顔なじみになっていく依頼者は、最初は元気そうに振舞っていたが、本当に元気になっていく姿を何度か見た。通い続けたある日、プランターにパンジーが植えてあるのを見た時は、何より嬉しかった。結局、自分は元気をもって帰ってきたよつだ。これからも、人との関わりと、何事もこつこつやるという姿勢を大切にしながら生きていくたい。

も違う災害でしたが、早期の復旧に努めたいと思います。

最後に百年に一度の大雪といふ不測の事態に対応して安全に除雪・工事への対応をしてくださった森林土木業者の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

糀山 健太郎

震災後3年目を迎えて改めて思うこと
県西地域県政総合センター 森林土木課臨時技師

も違う災害でしたが、早期の復旧に努めたいと思います。

最後に百年に一度の大雪といふ不測の事態に対応して安全に除雪・工事への対応をしてくださった森林土木業者の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。



3月11日 テレビで見た津波の映像が、どうしても信じられないで、落ち着かない日々を過ごしていました。当時の私は、大学院の卒業間際で、卒業後はすぐに向こうと決めていた。

4月の終わりに、原付バイクに荷物を積み込み、被災地へと向かった。目的地は決まっていなかつたが、1日中走りたり着いた場所が宮城県岩沼市であった。約3ヶ月間の生活を振り返ると、キャンプ地は住宅街の一画にある公園で、仮設住宅が隣っていました。当時の私は、大学院の卒業間際で、卒業後はすぐに向こうと決めていた。

通常総会に先立つて、優良現場代理人6人を表彰しました。田代一男技術委員長は受賞者に対し、「優れた技術で輝かしい実績を残されたことを高く評価します。優れた技術者は業界の宝です。各社の経営者は優良技術者を大切にするとともに、人材の育成に努力してほしい」と要請しました。受賞者は次のとおり。（敬称略）



当協会は昨年5月27日、箱根湯本の旅館「吉池」で第50回総会を開催し、新年度事業計画などを承認するとともに、山本会長らを再選しました。

山本会長は、「お陰様で協会創立50周年を前に一般社団法人化ならびに県との災害協定締結を実現することが出来ました」と感謝の気持ちを表してから、「会員が総合評価やインセンティブ発注の対象となるよう努力すると同時に、県環境農政局上層部との懇談会を実現させたい」と新たな意欲を示しました。

全国森林土木建設業協会の青木勇一郎専務理事と神奈川県森林協会の小笠雅弘専務理事から来賓あいさつを頂いた後、山本会長らを再選されました。本国孝相談役の議長で議事に入り、平成24年度事業と決算が可決承認されました。任期満了に伴う役員の改選では、山本会長ら全役員の再選が決まりました。任期満了に伴う役員の改選では、山本会長ら全役員の再選が決まりました。任期満了に伴う役員の改選では、山本会長ら全役員の再選が決まりました。

本方針と50周年記念写真の審議では、会長が自ら基礎構造など重点事業を提案し、いずれも満場一致で可決承認されました。

角村 風太

接している。海までの距離は5km弱で、周囲に津波がきた痕跡は出たらない。初日、テントから顔を出すと、滞在者たちが長靴姿で朝ご飯を食べている。すでに使い込まれた長靴は、手入れされた公園と不釣合いに見えた。岩沼市社会福祉協議会はボランティアの受け入れ体制が整っており、キャンプ地の提供や現地までの送迎を行っていた。手続きを済ませ、3~10人のチームになり、いざ出発。



優良技術者らを表彰

佐藤幸一（鈴木土建工業）
・ 安藤真哉（加藤工務店）
・ 星 義一（丸徳）
・ 吉村晴彦（落合組）
・ 小林保男（山善）
・ 落合純二（清川建設）

平成23年度 桧山林道開設工事（公共）（金時工区）

株式会社下田組 高村 靖治



本工事は、長年継続されてきた桧山林道事業の金時工区の林道開設工事であり、重力式擁壁と簡易法枠が主たる工事内容でした。

施工する上で留意した点としては、発生土抑制等の観点から3分勾配と設定され、切土後に滲み出るような湧水箇所が見受けられた切土法面への簡易法枠の品質確保でした。湧水箇所には透水マットを金網施工前に設置し、法枠と地山法面との間の排水を確保し、吹付けモルタルには纖維を添加混合することで、整形時の施工性とモルタルの付着力を向上させることにより、品質確保を目指しました。

また、標高の高さから降雪・積雪が多く、台風もあつたために除雪や復旧作業を行うことによる全体工程への影響や、地山からの転石に対する安全確保等の問題がありました。それらの問題点を乗り越え、無事故無災害にて完工出来たのは、現場の状況変化に迅速に対応していただいた監督員さんと、全作業員の安全意識

の高さによるものと思っています。これからも、森林土木事業に貢献できる難しさや楽しさを経験したことで、私自身、技術者として一回り成長できたことを実感しております。長い間の工事を通じて、林道工事特有の難しさや楽しさを経験したいと思います。

長できることを実感しております。これからも、森林土木事業に貢献できる難しさや楽しさを経験したいと思います。



自然の力を感じて

宮嶋建設株式会社 磯崎 好孝

に、事故もなく施工できたことに安堵したことを思い出されます。

今この場所に行くと、わずかではあります、自然の力（復元力）により小さな緑色を見ることが出来ます。自然に比べたら人間のできることは微力だと思いますが、森林整備、治山、治水事業を進めることにより過去から続く温暖化抑制の一助になります。今後ともその気持ちを念頭に置き、工事を管理していくことを思っています。

最後になりましたが、迅速かつ柔軟に対応して頂いた発注者及び発注者監督員、関係諸機関、近隣関係者の方に感謝いたします。

今回施工した工事は、台風による集中豪雨で法面が崩壊した事による、堆積土砂の撤去及び、崩壊した舗装版の復旧工事であります。

施工前に現地を見たときは、どこに道路があるのかわからないほどの方々が横たわっていました。注意深くその先に進むと、次の崩壊箇所があり、その先に目をやるとさらに崩壊箇所が続きました。舗装は削り取られて、汚れてしまつた深緑色の杉や、桧が横たわっていました。注意深くその先に進むと、次の崩壊箇所があり、その先に目をやるとさらに崩壊箇所が続きました。この林道は森林関係者の利用も多く、また地域関係者からも早期復旧を望まれていたので、工期内に完了することが出来るども



植生保護柵設置工事

高崎建設株式会社 高崎 保

丹沢自然公園の原生林にあるブナやカエデ等を、シカなどの動物危険から守るため、植生保護柵を設置する工事でした。

ナ由来の対応でした。月曜日に入山し、5日間山荘に宿泊、土曜日に下山して家で過ごすことの繰り返しです。山荘では夜明けと共に起きており、我々に気が付くと暴れて四方の柵に体当たり、最後は助走して柵の柱を折り柵外へ走り去りました。その日は被害の補修に一日を費やしました。

最後に、数々の打合せ事項にも迅速に対応頂いた監督員に感謝致します。

従業員同士のさらなる懇親が深められ、皆気持ちよくスクランブルを組んで作業が出来たことが何より良かったと思っています。

工事は、天候、工程的に厳しい面がありました。この林道は森林関係者の利用も多く、また地域関係者からも早期復旧を望まれていたので、工期内に完了することが出来るども

森林土木工事に従事して

株式会社 加藤工務店 安藤 真哉



私が森林土木工事に携わり、約十二年たちました。

入社した当時を振り返ると、右も左もわからず、見よう見ま似で仕事をしていたことを思い出します。そして私が代理人となり現場を任せただけのようになると森林土木工事の難しさをより痛感させられました。

一枚の図面に対して構造物を完成させるには何通りの中から選定しなくてはなりません。その選定にはとても苦労し心が折れそうになることもあります。それでも嬉しさは今の私の原動力となってきました。このような時には先輩技術者や監督員の方々が成功へと導いてくださいました。自分自身で一番良い方法へとたどり着いた時もありました。このような時にはいつも奮闘し心が折れそうになることがあります。それでも嬉しさは今の私の原動力となつていています。

現場が困難であればあるほど工事過程の緊張感は大きくなります。それ以上に工事完成後の達成感がおおきなものとなり、私の仕事に対する意欲と繋がります。

これも全て、今まで私に関わってきました。自分が代理人となり現場を任せただけのようになると森林土木工事の難しさをより痛感させられました。左もわからず、見よう見ま似で仕事をしていたことを思い出します。そして私が代理人となり現場を任せただけのようになると森林土木工事の難しさをより痛感させられました。

私が森林土木工事に携わり、約十二年たちました。

くださった皆様方のおかげだと思います。まだ未熟者ではありますが日々勉強し成長していきたいと思います。

最後に、森林が有する多面的な機能として、木材生産、水資源、国土保全、地球環境の維持といった、われわれの生活に様々な便益を与えるものを守っているということを念頭におき、森林土木工事に従事したいと思う次第です。



小規模治山事業を終えて

有限会社 酒匂土木 山崎誠一



きるよう考慮しました。

既設構造物の埋設部分等において変更が発生いたしましたが、監督員様と立会・協議を行い迅速に対応して頂きました。

本工事は平成二十一年九月に甚大な被害を及ぼした台風九号により土石流が発生した箇所の復旧治山事業で、既設谷止工の増厚・嵩上げ及び流路工の整備を行い、治山施設の機能向上を目的とした工事でした。流出砂は片付けられていましたが、谷止工背面や流路内には流出した倒木が多数あり災害の爪跡を感じました。

施工に際しては、既設構造部があるため新設施工時とはまた違った施工手順を勘案する必要がありました。狭隘な渓間の中での作業は掘削一つに際しても構造物があるため単純な作業ではありませんでした。また施工管理においては、工程・出来形管理に配慮しました。既設構造物があるため上下流の施工順序を明確にしていくことで、土砂の移動、コンクリートの打設等の作業を容易に行えるよう工程を組みました。

出来形管理も既設構造物との関連性があるため、既設構造物を把握することで出来形寸法を確実に確保できました。

最後に、豊かな自然は我々にとって四季を通じ様々な景色を肌で感じさせてくれます。時に温かく癒しを与えてくれ、また時に傍観することしか出来ない程の厳しさを教えてくれます。今後も自然を、日々大切に思い、誠意・熱意をもつて森林土木事業に精進していきたいと思います。

当協会は、平成24年3月に神奈川県と県営林道等災害防止支援活動に関する協定を締結しております。豪雨や地震等により県営林道等に災害が発生した場合、またはその恐れがある場合に、災害防止のための支援活動を実施するものです。

林道利用者等の安全確保・向上を図ることを目的として、迅速で円滑に安全対策を講ずるよう、基本的な事項を定めています。

支援活動の内容は、当協会が県営林道施設の被災の有無や、治山施設、森林の被害に関する情報を無償で収集し、神奈川県に報告することになります。そしてそのため協力体制を整備しております。

社会に認知された一般社団法人としての責任と、会員としての自覚で力強く前進したいものです。



森林技術者らが研修会 県環境農政局と当協会の技術者ら 神奈川県森林協会主催

神奈川県森林協会は昨年12月16日、秦野商工会議所に県環境農政局と当協会の技術者を招いて技術研修会を開催しました。（写真）

これは県の森林土木事業を円滑に進めようと、同森林協会が毎年開催しているもの。行政側から県環境農政局森林再生課基盤整備グループの鈴木宏一リーダーを始め幹部技術者と、県央・湘南・県西・自然環境保全など各地域センター森林土木関係の技術者ら合わせて6人が、また受注側から当協会の川久保・田代両副会長を始め、各支部の理事と現場代理人ら合わせて20人が参加しました。

森林協会の小笠雅弘専務理事の司会で進められた研修会は、受注各社の現場代理人から提出された検討課題を基に、県の技術者が答える形で進められました。発・受注双方の理解を深めるのに大いに役立つ研修会でした。

主なテーマは次の通り。

- ①残存型枠・足場工の積算
- ②検査コアの抜き取り時期
- ③コンクリート堰堤本体工・床固め工の管理基準
- ④間詰工の設計
- ⑤残土処理量単位の統一
- ⑥ヘリの資材運搬
- ⑦伐採除却費の単価
- ⑧捨土整理の設計
- ⑨山林砂防工の適用拡大要請
- 特定建設業の入札参加条件
- ⑩地域精通度の加点

全森建要望の早期発注に朗報 測量・設計などを先行実施 林野庁が見解

当協会の上部組織に当たる全国森林土木建設業協会が平成25年度に林野庁へ提出した改善要望に対する回答が明らかになりました。全森建の技術・労務委員会によると、各地区ブロックから出された改善要望事項は11項目。このうち特に注目されるのは、調査・測量・設計などの委託業務を前年度に発注して工事の早期着手に道が開けるようになったことが挙げられます。

全森建の要望は、「治山事業について、年度予算が決定した後に各種業務が委託発注され、その後で工事発注が行われている。特に新規施工箇所は、委託業務が完了した後に遅れて工事発注されるため、入札不調が発生しやすい要因になっています。積雪の多い地域では年度当初からの早期発注が出来るよう、工事箇所の調査・設計などを前年度に実施できるよう、事業制度を確立してほしい」というもの。

これに対して林野庁の見解は、「近年、局地的な集中豪雨等が全国的に頻発しており、迅速な災害復旧事業の実施による復旧対策に加え、国土強靭化に向けた事前防災対策の強化を進めていくことが重要になっています。こうしたことから今年度より、必要に応じて、年度当初予算の早期の工事着手に向け、その前年度に当該工事に係る調査・測量・設計業務を先行的に出来ることとした」と回答。業界の要請にご理解を頂き、心から感謝しているところです。

一方、森林土木関係作業員の労務単価改善要望では、「建設関係作業員については、その業務内容に応じて職種区分されている」と希望に添えない内容。「特に傾斜がきつい場合は、山林砂防工が適用される」としているものの、「山林砂防工は、平坦な土地に隣接する工事や林道工事と同等の箇所については山林砂防工を適用できない」と厳しい見解で、現実は狹き門になっています。

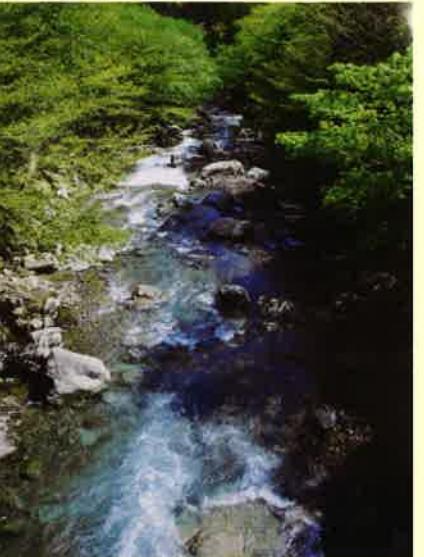
また治山林道事業における共通仮設費の割り増しや、実態に即した森林土木独自の歩掛り設定要請などについても、「一般土木工事でも市街地ばかりではなく、山僻地での施工もあり、林野庁のみ独自に考慮できない。現時点での諸経費の見直しは困難」（標準歩掛については、都道府県等における全国的な適用状況や要請状況等を踏まえ、必要に応じて調査・分析を行い、見直しの検討を進めているところであり、引き続き適正な積算に資するよう努めたい）としています。

50周年記念写真コンクール 応募195点の中から厳選



当協会設立50周年を記念して行われた写真コンクールの審査会が4月16日、協会の正副会長、支部長とカメラのキタムラ厚木・林店の馬場店長らによって行われました。

応募作品は、いずれ劣らぬ秀作ばかりで、選考は困難を極めました。応募195点の中から、一次審査で55点、二次審査で32点に絞り、最終選考に残った10作品のうち、平塚市の伊藤さんの作品が神奈川県知事賞に選ばれました。このほか最優秀賞1点と優秀賞3点、佳作賞1点などが決まりました。表彰式は5月22日、秦野商工会議所で行われます。



【表紙の写真】

表紙の写真は、当協会創立50周年記念「森林と水」写真コンクールで、神奈川県知事賞に輝いた「丹沢源流の流れ」という作品です。平塚市在住の伊藤良一さんが、清川村の県道70号線・丹沢ホーム付近で撮影したそうです。

募集のテーマである「生命の源 緑の山々」に相応しく、森林の重要性と水の大切さが迫力のあるタッチで伝わってきます。

神奈川県森林土木建設業協会 ホームページを開設

当協会のホームページが開設されました。協会の活動内容やお知らせなど分かりやすく編集されています。

一般の方々や、会員の皆様に親しまれ、役に立つホームページを目指しています。フェイスブックでは皆さんの近況やご提案、ご要望を寄せる場もあります。また、会員のページでは、理事会の議事録や森林土木事業の内容など、会員に役立つ情報を掲載しております。お気軽にアクセスして下さい。



山本玄一郎氏

（やまとく・げんい
ちろう）元神奈川
県森林土木建設業
協会会長・元株山善社長

協会会長・元株山善社長 平成25年4月1日、療養先の病院で逝去。享年80歳。初代会長の山本善三郎氏の子息で、現会長の山本善一氏の実父。3期6年間当協会の会長を務め、今日の基礎を造った功績は大きい。ご冥福をお祈りいたします。



総務委員会（中央が筆者）

編集後記

公共投資の増額や緩やかな景気の回復などから受注環境は改善されたものの、労務費や一部資材費の高騰などで、引き続き厳しい経営を強いられています。特に建設業は、技術・技能の伝承が欠かせません。20年毎に社殿を造り変えて行われる伊勢宮の式年遷宮が昨年挙行されました。改革に当たる職人は10歳代で見習い、30歳代で中堅、50歳代で親方の立場になります。改めて50歳代で日々と技術の伝承を行っていると言います。

本号に寄稿下さった技術者の皆さんから、森林土木事業への深い思いやりと真剣な取り組み姿勢が読み取れ、実に頼もしく感じた次第です。若手技術者の育成には時間がかかりますが、森林土木の建設業が魅力ある業界となるよう皆で頑張りましょう。

総務委員長 加藤賢一

神奈川の森林を愛する技術集団

一般社団法人神奈川県森林土木建設業協会会員名簿(58社)

上支部	(株)永田組	(有)石川建設	大野土建(株)
(有)池谷建設	(有)野木建設	(有)井上組	落合組
(有)井澤組	(株)深瀬組	(株)勝俣組	菊地原建設工業
石井建設(株)	(株)松永組	(株)川久保組	清川建設
(株)磯部組	宮嶋建設(株)	三和建設(株)	小島建設
今泉建設(株)	(有)籾田組	湘山開発(株)	小山設備
(株)加藤工務店	(株)山崎組	箱根建設(株)	佐藤建設(株)
金子建設(株)	(株)湯川組	丸徳(株)	鈴木土建(株)
中支部	(有)酒匂土木	(有)三浦組	(有)芹沢土建
三恵総業(株)	(株)稻本組	譲原建設(株)	高崎建設(株)
(株)下田組	上村興業(株)	県央支部	平井工業(株)
(株)鈴木土建工業	(株)興栄建設	(株)朝倉建設	(株)星建設
静和建設(株)	(株)坂本組	安西興業(株)	山善
(株)滝本土建	(株)杉山土建	大野建設(株)	山本組
(株)田代組	(株)渡辺組工業		
東海林工(株)	(株)内藤建設	(株)秋山組	

〒252-0155 神奈川県相模原市緑区鳥屋2878
(一社)神奈川県森林土木建設業協会
担当事務局:滝澤庸子
TEL:080-1287-4477 FAX:042-785-0512
sdkanagawa@khf.biglobe.ne.jp
<http://kanagawa-shinrin.com/>